

ヨーロッパに眠る「きもの」

ージャポニズムからみた在欧美術館調査報告ー



©東京美術

著者：深井晃子（京都服飾文化研究財団）

長崎巖（共立女子大学）

周防珠実（京都服飾文化研究財団）

古川咲（共立女子大学博物館）

出版：東京美術 2017年

判型：B5、160頁、うちカラー128頁

ISBN：978-4-8087-1077-4 C0070

価格：2,400円+消費税

概要：

本書は、平成 21-23 年度文化学園大学文化ファッション研究機構服飾文化共同研究拠点採択公募研究課題（共同研究番号 21006）

「ジャポニズムを背景とした着物の欧米における影響についての研究」（代表研究者：深井晃子、共同研究者：長崎巖、稲賀繁美、周防珠実、石関亮）、平成 25 年度公益財団法人ポーラ美術振興財団調査研究助成「ジャポニズム期に流出した在イタリアの美術館における日本染織品についての調査」（代表研究者：深井晃子、共同研究者：長崎巖、周防珠実、古川（小島）咲）、平成 26-28 年度科研費基盤研究(C)（JSPS 科研費 26370150）「ジャポニズム期に流出した在欧洲におけるきもの及び日本染織品の保有状況の調査」（代表研究者：周防珠実、研究分担者：深井晃子、連携研究者：長崎巖、古川（小島）咲）の成果報告としてまとめられた書籍です。

鎖国を解いた開国後の日本が急速に海外に知られたとき、日本品は蒐集家などによって収集され、ジャポニズムの波を引き起こしました。その中には、当時の他の衣文化に比べて洗練されたきもの及び日本染織品がありました。さまざまな影響を引き起こしたことが知られるようになったとはいえ、それら日本染織品類の海外における収蔵状況は、必ずしも包括的に調査されたことはありませんでした。本書では、ジャポニズムの時期に流出し、在欧美術館に現存する日本染織品の概要を明らかにしています。

目次：

ジャポニズムの時代の「きもの」－在欧美術館所蔵染織品調査報告－

深井晃子（京都服飾文化研究財団 名誉キュレーター）

明治期における日本の染織品の海外流出

長崎巖（共立女子大学 教授／共立女子博物館 館長）

各館における「きもの」および日本染織品所蔵状況

フランス 周防珠実（京都服飾文化研究財団 キュレーター）

パリ装飾芸術美術館（旧モードとテキスタイル美術館）

フランス国立ギメ東洋美術館

パリ市立衣装美術館（ガリエラ宮美術館）

リヨン織物装飾芸術博物館

イギリス 周防珠実

ヴィクトリア・アンド・アルバート美術館

スコットランド国立博物館

グラスゴー市立ケルヴィングローヴ美術館

イタリア 古川咲（共立女子大学博物館 キュレーター）

国立ヴェネツィア東洋美術館

ローマ国立ルイーダ・ピゴリーニ先史民族学博物館

ローマ国立ジュゼッペ・トゥッチ東洋美術館

アントニオ・ラッテイ財団テキスタイル美術館

イヴレア市立ガルダ美術館

[コラム]グイド・ラヴァシの絹織物デザインに見る日本の影響

ラウラ・ディミトリオ

オーストリア 周防珠実

オーストリア応用美術博物館

ウィーン世界博物館（旧ウィーン民族学博物館）

ウィーン民俗学博物館

ポーランド 古川咲

日本美術技術博物館（通称マンガ博物館）

ドイツ 周防珠実

ハンブルク美術工芸博物館

収蔵品リスト

まとめにかえて 深井晃子

索引

謝辞